

西暦 2025 年 2 月 10 日

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業 研究経過／終了報告書／成果報告書

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究利活用委員会 委員長殿

所属医療機関 病院 司法精神診療部申請者 平林 直次

重度精神疾患標準的治療法確立事業（医療観察法データベース事業）において収集されたデータを用いて行う研究について、

- 継続中につき、経過を報告します。
 終了したので、結果を報告します（終了後の成果報告の予定 あり なし）。
 終了後に成果を公表したので、報告します。

申請 番号	MTSA-008	研究 課題名	動的因子を含む変数群による医療観察法対象者の類型化に関する研究
研究結果（経過）： データセットの受領後、分析のための加工、記述統計を行ったうえで、TwoStep クラスタ分析を行った。本研究は厚生労働科学研究の一環で実施したため、分担班会議で議論を重ねながら分析を進めた。 2017 年 7 月から 2022 年 6 月までに入院決定となった 1198 例のデータを用いて、複雑事例と隔離歴、拘束歴、クロザピン処方などの動的因子を加えて TwoStep クラスタ分析を行い、MTSA-004 および 007 で作成した類型化の再現を試みた。その結果、隔離歴、拘束歴、クロザピン処方を追加したことにより、これらと重複障害を有する対象者が凝集して一つのクラスターを形成したため、同様の類型は作成されなかった。また、入院 18 ヶ月後の退院率の群間比較や入院 18 ヶ月後の社会復帰関連指標の群間比較を行った。今後も、一次分析で選別された投入変数パターンを検証しつつ、動的因子を追加して多様な分析を行うことにより、類型の精緻化、および類型ごとに有用な支援のための基礎的知見を蓄積する。 成果は下記のとおり学術誌上で発表した。今後も学術の場での成果報告を予定している。			
上記公開に際しての希望： <input checked="" type="checkbox"/> すぐに公開してよい。 <input type="checkbox"/> 年 月以降に公開してよい。 <input type="checkbox"/> その他（)			
研究利活用委員会に未報告の研究成果公表実績（学会発表、論文など）： <ul style="list-style-type: none">河野 稔明, 小池 純子, 竹田 康二, 岡野 茉莉子, 阿部 真貴子, 藤井 千代, 平林 直次：静的因子により類型化した医療観察法入院対象者の動的因子による検証—主診断が F2 の事例の分析。第 19 回司法精神医学会大会, 東京, 2023 年 9 月 8 日河野 稔明, 小池 純子, 竹田 康二, 岡野 茉莉子, 藤井 千代, 平林 直次：動的因子を用いて類型化した主診断 F2 の医療観察法入院対象者の治療転帰からみた特性。第 20 回日本司法精神医学会大会, 東京, 2024 年 5 月 24 日			

※事務局記入欄

初回申請

2022 年 11 月 18 日

初回承認

2022 年 12 月 16 日